

## 平成二十八年度 入学式 式辞

(山村学園短期大学)

新入生の皆さん、入学おめでとう。

早春の緑のシャワーを浴びながら、バス停から学内の通路を歩いていくと、左手に白く咲くユキヤナギ、右手に黄色く咲き乱れるレンギョウ、そしてちまたで咲いているサクラのソメイヨシノに比べると華やかさはないが日本の野生の桜の代表ともいえるヤマザクラ、そして「ホーホケキョ」の鳴き声。「春告げ鳥」と呼ばれ、四月から七月までさえずるウグイス。ほどなく正面入り口、そしてオープンテラスのある緑に囲まれたカフェテリア、フランスのループル美術館を思わせるガラス製のピラミッドのエントランスから地下へと入るとここ芙蓉館ホール。斬新なデザインの建物と緑あふれる自然豊かなキャンパスが広がっています。

本日は、本学の山岸後援会長、高橋同窓会長、学校法人山村学園より岡理事長、山村寛前理事長、山口理事、山村正巳本部長の皆様にご臨席をいただいております。

さて本学の最大の特長は、季節の移り変わりを肌で感じる緑豊かな「森の学園」と言えるでしょう。

春にはウグイスがさえずり、タンポポの草笛、シロツメクサで冠作り。

夏には育てた野菜でバーベキューやポップコーン祭り。

秋にはクヌギやコナラのドングリ遊び、アキアカネ、通称赤とんぼが乱舞し、学問の木と呼ばれる「カイノ木」が真っ赤に紅葉する。

そして雪が降ればまさにそこは銀世界。

野ウサギやタヌキはもちろんのこと、アライグマやハクビシンまで出沒。近くの里山「石坂の森」では食物連鎖の頂点に立つ「オオタカ」が空高く舞い、ゲンジやヘイケ等のホタルが六種類も幻想的な淡い光を放ちます。今、皆さんのいる地下にあるこの芙蓉館、その入り口近くには、この名の由来である「芙蓉の木」が夏に赤白ピンクの大きな花を咲かせます。

まさに四季折々の様子を見せてくれる学園です。

アメリカの自然科学者の女性に、レイチェル・カーソンという人がいます。その人

の書物に「センス・オブ・ワンダー」があります。その一説を紹介します。

美しいものを美しいと感じる感覚 新しいものや未知なものにふれたときの感激  
思いやり、憐み、讃嘆や愛情などの、さまざまな形の感情がひとたび呼びさまされ  
ると

次はその対象となるものについて、もっと知りたいと思うようになります。

「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない

まさに感性の重要性を説いています。

「感性」・・・人間の持つ知覚的な能力のひとつで、物事に感じる能力、感覚です。  
乳幼児に関わる保育者にとって、子どもに寄り添いながら共感・共有するには、豊  
かな感性が求められます。

さて、保護者の皆様に一言ご挨拶を申し上げます。入学、本当におめでとうござい  
ます。

大学生といってもまだ大多数が十八歳、山村短大とご家庭で、手を取り合い、健や  
かな成長に力を注いで、見守っていただくことを願っています。世間では  
「待機児童」や「保育士不足」等保育を取り巻く諸問題が取りざたされております。

ぜひ新入生の皆さんも、「さいたま景観賞」を受賞した、緑あふれるこのキャンパス  
を愛し、入学して良かったと思える学園生活を、先輩と一緒にあって創ってくれるこ  
と、そして本短大の校歌にも歌われている「友よ やまむら」にあるように、人生に  
とってかけがえのない友をつくってください。

本学の自然豊かな「森の学園」での二年間で感性を磨き、保育の心を十分に育んで  
いくことを期待し、式辞といたします。

平成二十八年四月一日

学校法人 山村学園短期大学

学長 野口一夫